

ドラマや映画などフィクションから ジェンダー平等を実現したいですね

▶▶▶ 杏さん

ズ。それに少しの野菜があればOKというスタイルなのだ。知ったときも、衝撃を受けました。調理をしなくてよいのであれば洗い物だって出ないし、買い物だってちょっとで済みます。そして何より、お母さんが調理をするために一緒に食卓を囲めないなんておかしいという発想から始まっていることに感動しました。

中満 国によって、子育てはさまざまです。よね。日本だと子どもが小さいうちはお母さんがそばにいないと、という考えが根深いですが、私が住んでいたスウェーデンは逆。1歳になるのに保育園に通っていないなんてかわいそう、なんです。

杏 社会の進出の仕方でも子育てでも、もっと多様でいい。それを知ること、救われる日本の女性がたくさんいて、もっと前向きな未来になるように感じています。

中満 こうあるべき、という考え方をしない。自分の子育ての方法を周りや次の世代に押しつけない。それは本当に大切なことですよ。

**小さなことも続けていけば
大きなつねりになる**

杏 最初に生まれたのが女の子だったとき「女の子でよかったね。手伝わなくてもいいのね」と言う方が多かったんです。何を手伝わなくてもいいかという家事なんですよ。男の子なら手伝わなくていいということって思いました。このようなジェンダー不平等は、やはり世界共通なのでしょうか？

中満 国によって違いますね。日本は育児など制度上は比較的整っていますが、意識

の面で大きくジェンダーギャップがあるとあります。私は大学生になる娘がふたりいます。海外で過ごした時間のほうが長い彼女たちにとって、日本での暮らしはカルチャーショックの連続のようです。例えばドラマを見ていても、会議室のテーブルを囲んでいるのは全員男性で、そこに資料を配りに来るのが女性、というシーンをよく目にします。海外のドラマではありえない状況が繰り返し刷り込まれているわけですね。娘たちにとっては、これを疑問に思っ、変えていこうとする視点を持つるよう、社会全体でなぜならないのか、と感じるようです。

杏 意識改革が大切なんです。何から始めたらいいでしょうか。

中満 一番大切だと思うのは、身の回りの気づいたところから声を上げていくこと。小さなことも積み重ねていけば、大きなつねりをつくっていくことができます。

杏 自分ができることを考えたとき、エンターテインメント業界にいる人間として、フィクションの世界からジェンダー平等を実現できればいいなと思います。例えば、女性の首相や官僚が、どんどん日本の制度を変えていくみたいな。そういうドラマや映画があれば、女性ももっと活躍している社会のイメージがしやすいと思うんです。女性を持ちあげて素晴らしいというのではなく、女性がこんなことをできるようになったら面白い、というのを提案したい。エンターテインメントの力って何だろうとなったときに、やはり人の心やもの見方にアプローチできることだと思うんです。そして、日

本人が一般的に考えているリーダー像を変えていきたい。今は、俺について来い、ではなく、弱い立場の人に心を寄せられるようなタイプが、求められるリーダー像だと思っんです。フィンランドやニュージーランドの国家元首のような。

中満 そういったリーダー役、ぜひ杏さんに演じていただきたい！

**避難民の到着時、赤ちゃんを
きれいに洗った女性リーダー**

杏 今までのキャリアで影響を受けたリーダーというのはいらっしゃいますか？

中満 国連難民高等弁務官であった緒方貞子さんをはじめ、国連での上司や同僚の視点には影響を受けました。また、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争中に会った、ひとりの女性リーダーのことは忘れられません。ボスニア・ヘルツェゴビナのトウズラで、避難民の受け入れに立ち会ったことがあります。その時、トウズラ市福祉局長を務め現場のトップである中年の女性が、私の手をとって避難所内の乳児室に連れて行きました。そこでは、白衣を着た女性たちが乳児を洗い、オムツを当てて新しい服を着せ、母親たちの腕に返していました。それはすごく大切なことでした。抵抗力のない赤ちゃんを、不衛生なところでそのままにしておいたらどうなるか。想像するだけに恐ろしいことですが、出産どころか結婚もしていなかった私にはそこに思い至ることはできません。女性としての経験値がある彼女だからこそ、気づいたことであり、優先順位の上位において行動に移せたのだ

と思えます。

杏 女性であることの経験値が、支援の現場でも生かされたのです。やはり、世界の重要な意思決定の場に、女性がもっと加わると思います。

中満 女性が社会で活躍するというのは、女性の視点をもって色々な人のためになることでもある。もっと優しい世界をつくることにつながります。ジェンダー平等が進んで得するのは、男性も含めた世界全体なんです。その意識をもって、みんなでジェンダー平等に取り組んでいけるといいですね。

国連事務次長・ 中満泉さんのお仕事を拝見!

中満さんが現在担当しているのは軍縮。国益がぶつかり合う最も解決困難な国際問題のひとつですが、専門家ではない中満さんにグレース事務総長がオファーしたのは、それまでのキャリア、激戦地での国連平和維持活動(PKO)を主管した経験、また難民キャンプなどでの人道支援などでの経験が期待されたことでした。



1 コンゴの難民キャンプ。2 パチカンで開催された核軍縮会議。3 核不拡散条約に関する会議で演説。
Photos:Afto